



大妻多摩中学校

二〇二五（令和7）年度

入学試験問題（第二回）

【国語】

時間 50分

2月1日（土）

【注意事項】 1 問題は20ページまであります。

2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。

3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。

4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。

5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、設問の都合上、本文の一部に省略した箇所がある。

言葉というのはつくづく難しいものだと思います。言語学を学び始めてから三十年以上の月日が経ち、今では一応「言語学者」や「作家」という肩書きで仕事をしています。言葉に関する失敗は後を絶ちません。

たとえば以前、家族から「ハイター（漂白剤）を買ってきて」と頼まれたことがありました。私は「台所用」のハイターを買って帰りましたが、家族が欲しかったのは「洗濯用」のハイターでした。

また、猛暑が続いていた夏の日、私の何気ない一言が知人を驚かせたことがありました。それは「毎日暑いよね。でも、明日はだいたいよいよ。マイナス六度だって」というものです。私は「今日との気温差」を言ったつもりでしたが、知人は「氷点下六度!？」と思ったそうです。

以上のような誤解は笑って済ませることができませんが、世の中には笑えない例もたくさんあります。SNSを見ていると、言葉のちよつとした解釈の違いで対立が起こる場面を頻繁に目撃します。

たとえば、ニュース記事の見出しに、「②」のような表現があった場合、人々の間で解釈が割れがちです。まず、③「①」と言う人が出てきます。するとそれに対して、「④」
と反論する人も現れます。そこでお互いに「⑤」
と立ち止まればいいのですが、私が見るかぎりでは、どちらも「自分が正しい」と言って譲らないケースが多いようです。

ところでみなさんは、「勉強しない大学生」という表現を、どのように解釈しましたか？ これを見て、「大学生はみな勉強をしないと決めつけている」と思いましたか？ それとも、一部の大学生に限った話だと思いませんか？

答えを言ってしまうと、「勉強しない大学生」という表現には両方の解釈があります。ここでカギとなるのは、「勉強しない」と「大学生」の修飾関係です。くわしくは第4章で説明しますが、これらの関係をどのように捉えるかによって、次の二通りの解釈が出てきます。

「勉強しない大学生」

解釈1…勉強をしない、大学生というもの（↓大学生）⑥が勉強しない

解釈2…大学生のうち、勉強しない人たち（↓勉強しないのは、大学生）⑦である

言語学の立場から眺めれば、この例に限らず、⑧ 私たちが発する言葉のほとんどは曖昧で、複数の解釈を持ちます。しかし、私たちはなかなかそのことに気がつかず、⑨ 自分の頭に最初に浮かんだものを「たった一つの正しい解釈」と思い込む傾向があります。

世の中には、考え方が違いすぎるあまり、まったく対話ができない人たちがいることは確かです。しかしその一方で、ものの考え方はそう変わらないのに、言葉の解釈の違いだけで対立してしまうケースも少なくありません。SNS上のやりとりを眺めていて、「言葉のすれ違いさえなければ、この人たちはもつと分かり合えたかもしれないのに」と残念に思ったことは、一度や二度ではありません。言葉のすれ違いを察知し、ある程度の対処ができるようになるには、言葉を「多面的に見る」ことが必要になってきます。その際に役立つのは、曖昧さがどういふときに起こるかについての知識です。曖昧さの要因が頭に入っていれば、「もしかしたら私の言葉は誤解を与えるかも」とか、「もしかしたら相手は、私が思っているのと違う意味でこう言っているのかも」などと考える余裕が出てきます。

(中略)

最後に、ここまでの内容について二点だけ補足したいと思います。

一点目は、「曖昧さは、どの言語にも見られる」ということです。たまに「日本語は曖昧な言語だ」という言説を見かけますが、日本語だけが飛び抜けて曖昧だというわけではありません。この本の中で紹介してきた曖昧さの要因はどれも、日本語だけでなく他の

言語にも見られるものです。

二点目は、「曖昧さには良い面もある」^⑩ということ。言葉の曖昧さは私たちを悩ませるものではありませんが、曖昧であるがゆえに、効率的なコミュニケーションが可能になっているという面もあります。

もし言葉から曖昧さがなくなったら大変なことになります。ヴァーツラフ・ハヴェルの戯曲『通達』は、そのことを端的に教えてくれます。この戯曲には、プティデペという人工言語が登場します。この言語は、曖昧さを完全になくし、コミュニケーションを円滑にするために開発されたものですが、多くの混乱を引き起こします。

まず、この言語では、一つの単語が複数の意味を持つことを禁止しています。「一つの単語に、一つの意味」を徹底しようとしているのです。すると、当然のことながら、単語の数がどんどん増えていきます。

プティデペでは、単語の長さもどんどん長くなります。なぜかという、使える音や文字が限られている中で単語の数を増やすには、単語を長くするしかないからです。ただでさえ単語の数が増えて覚えにくいのに、一つ一つの単語が長くなると、ますます難解になります。プティデペ最長の単語は「カワアマツバメ」を意味する言葉で、三百十九文字もあります。とても人間が覚えられない言葉ではありません。

^⑪ プティデペは架空の言葉ですが、もし単語から曖昧さを排除したらどうなるかということがありありと伝えてくれます。私たちの言葉は曖昧で、複数の解釈を許しますが、そのぶん短く簡潔に情報を伝えられます。コミュニケーションの中で上手に曖昧さに対処できれば、スピーディなやりとりが可能になるのです。

また、曖昧さがあることによって、掛詞や駄洒落などといった楽しい遊びができるという面もあります。もし曖昧さがいっさいなかったら、私たちの言葉はきわめて味気ないものになるでしょう。

私たちが体験している現実世界は多様で複雑です。一日として同じ日はなく、一つとして同じものもなく、ものの考え方や感じ方も一人一人違います。私たちはそういった^⑫を、限られた音や文字からなる「言葉」というシステムで表現しようとしているのですから、曖昧さは言葉について回る宿命と言っていていいでしょう。言葉のすれ違いを防ぐのは難しいことですが、読者の皆さんに

曖昧さを少しでも楽しいもの、面白いものと感じていただけたら、著者としては嬉しく思います。

(川添愛『世にもあいまいなことばの秘密』(ちくまプリマー新書)より)

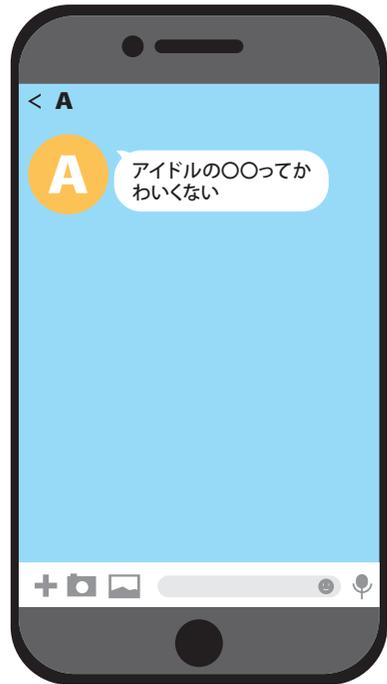
問1 — 線部①「SNSを見ると、言葉のちょっとした解釈の^{かいしゃく}違いで対立が起る場面を頻繁に目撃^{もくげき}します」について、次の問いに答えなさい。

- (1) ある日、SNSのチャットでAさんとBさんは次のようなやりとりをしました。



次の日、Aさんがいつまで待ってもBさんは遊びには来ず、Aさんはそれに対して怒ってしまいました。このようなすれ違いが起こった理由を三十字以上、四十字以内で答えなさい。

(2) またある日、AさんとBさんは、Bさんが好きなアイドルについてSNSのチャットで次のようなやりとりをしました。



Aさんは「かわいいよね？」という風にBさんに共感を求めたつもりでしたが、Bさんは自分の好きなアイドルがけなされたと感じて怒ってしまいました。このすれ違いは音声で聞いた場合だと起こらなかつたと考えられますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 音声で聞いた場合だと、BさんはAさんの表情を見ることができると、Aさんが自分に共感を求めているのだと判別できるから。

イ 音声で聞いた場合だと、文字よりも感情的になりくいため、Bさんはその場で怒ってしまうという事態を回避することができるから。

ウ 音声で聞いた場合だと、「もしかしたらAさんの言葉は別の解釈もできるかもしれない」という想像力を文字よりも働かせることができるから。

エ 音声で聞いた場合だと、Aさんの言葉の文末は疑問のアクセントになるため、BさんはAさんが自分に共感を求めていると判別できるから。

問2

②・③・④・⑤に入る文章として最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、

その記号を答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

ア もしかしたら、相手の言うような解釈もあるかもしれない

イ これはおかしい。大学生がみな勉強しないなんて、勝手に決めつけないでほしい

ウ 勉強しない大学生 その実態を探る

エ 大学生がみな勉強しないなんて書かれてないし、一部の大学生に限った話でしょ

問3

⑥・⑦に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

ア 以外 イ 全般 ウ だけ エ の一部

問4

——線部⑧「私たちが発する言葉のほとんどは曖昧で、複数の解釈を持ちます」とありますが、「有名な女性の肖像画」と

いう言葉の場合は、「解釈1…女性が描かれた有名な肖像画」以外にどのような解釈がありますか。もうひとつの解釈について、

「女性が」「描かれた」「有名な」「肖像画」という言葉を並び替え、に入る最も適切な文章を完成させなさい。

「有名な女性の肖像画」

解釈1…女性が描かれた有名な肖像画。

解釈2…。

問5

——線部⑨「自分の頭に最初に浮かんだものを『たった一つの正しい解釈』と思い込む傾向があります」とありますが、その

傾向から抜け出すためには何が必要になってきますか。本文中から十三字で抜き出して答えなさい。

問6 — 線部⑩「曖昧さには良い面もある」とありますが、曖昧さの「良い面」として適切でないものを、次のア～エの中から一

つ選び、記号で答えなさい。

ア 情報を短くまとめて伝えることができる。

イ 余分な単語を覚える必要がなくなる。

ウ 効率的に情報を伝達することができる。

エ 曖昧さを利用して言葉遊びをすることができる。

問7

— 線部⑪「プティデペは架空の言葉ですが、もし単語から曖昧さを排除したらどうなるかということとありありと伝えてくれます」とありますが、単語から曖昧さを排除したらどうなるのかを本文のプティデペの例を踏まえて三十字以上、四十字以内で説明しなさい。

問8

⑫に入る四字熟語として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 森羅万象
しんらばんしやう

イ 十人十色

ウ 古今東西

エ 一喜一憂
いっきいちゆう

問9

本文の内容として最も適切なものを、次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 意見や考え方は同じでも、ひとつの言葉に対して互いに異なる解釈をした結果、対立してしまう場合がある。
- イ 曖昧さの要因をしっかりと把握はあくしておくと、すれ違いを回避することが容易になってくる。
- ウ 曖昧さはどの言語にも見られるものだが、日本語に固有の要因で生じる曖昧さも多いことが分かる。
- エ 曖昧さがどういふときに起こるかを知っていると、言葉の曖昧さ自体を排除はじきよすることができる。
- オ 筆者は言葉の曖昧さを宿命として受け入れ、むしろ楽しいものとして捉とらえることを提案している。

二 次の記事を読んで、あとの問いに答えなさい。

隠しごとには、匂いがある。

声には出さずに呟き、寝返りを打った。愛衣の鼻は嘘や秘密を敏感に、文字通りに嗅ぎ取ってしまう。物心ついたころからそうだった。だから愛衣には、サンタクローズの存在を素直に信じていた時期がない。なんとなく怪しいと、ずっと思っていた。隠しごとの内容までは察知できないが、知られたくないという焦りと匂いの強さは比例するらしく、相手が必死になればなるほど、匂いは凝縮したように濃くなった。

5

(中略・愛衣は、辻珠紀という同級生の女の子と学校で飼っているウサギの世話をしている。)

「ウサギが寂しいと死んじゃうって、本当なのかな」

気がつくとその疑問を口にしていた。

(注1) 仁美と香奈恵が二人きりで遊んでいたことが発覚してから、今日で五日が経つ。翌

10

朝は顔を合わせるなり香奈恵に謝られ、ああ、仁美から電話があったのだと、さらに暗い気持ちになった。愛衣が謝罪を受け入れたことで、表面上は穏やかな時間が流れている。だが、あれから二人が妙に自分に気を遣っているように思えてならなかった。

「その歌、流行ってるよね。なにかのドラマの主題歌なんじゃない？」

テレビ番組や芸能人の話はほとんどしない珠紀も、さすがに知っていたようだ。この歌のCDはそれほどまでに売れている。愛衣は顔き、一番のサビを小声で口ずさんだ。

「いい歌だよね」

涙ぐみそうになる。

友情が、どうしても長く続かない。

15

① 友人関係がこじれるのは、これが初めてではなかった。幼稚園児のころには、花瓶を倒したことを隠そうとしていた友だちを臭いと騒ぎ立て、奇異な視線を集めた。小学校二年生のときには、学校を休んで家族と遊園地へ出かけた友だちに、なにか隠していることがあるだろうとしつこく詰め寄り、最後には泣かせた。向こうから絶交を宣告されたり、愛衣のほうから距離を置いたり。勘がよすぎると気味悪がられたことも、一度や二度ではない。

だから気をつけていたのに。愛衣は下唇を噛む。私たちって親友だよ、と頻繁に確かめ合い、仁美と香奈恵からあの匂いが漂ってきたときも、生理が来たとか忘れものをしたとか、そういう理由に違いないと自分に言い聞かせていた。でもだめだった。この変な鼻のせいだ。全部、すべて、なにもかも。

「そうかなあ。おかしい歌じゃない?」

珠紀の声で我に返った。彼女を見上げて、

「どうして?」

と尋ねる。珠紀はしかめ面で、

「寂しくて死ぬって、どういうこと? 寂しいって感じたら、心臓や息が止まるの? それってどういう体の仕組み? 病気でも怪我でもないのに、おかしくない?」

珍しく興奮しているようだ。四年生くらいの女子が二人、校庭のほうから小走りやって来て、小屋の数メートル手前で足を止める。どちらも怯えたような目で珠紀を見ていた。だが、珠紀は気がつかない。寂しさで死ぬ生きものなんていない、そんなに弱い生物は、もつと小さなショックでさっさと命を落としているはずだと、ますます熱のこもった口調で言い立てた。

女の子たちは短く囁き合ったのち、来た道を引き返していった。

② 「辻さんって、格好いいよね」

愛衣は呟いた。ほかのクラスメイトとは全然違う。珠紀の確立された考えに触れると、いつだって目の覚めるような思いがした。

愛衣の言葉に照れたのか、珠紀は小さな耳を赤くした。それから、話題を変えるように、

「そういえば、あの漫画、読んだ？」

「あ……うん」

「どうだった？」

「まだ途中なんだよね」

珠紀の目を見ずに愛衣は答えた。途中までしか読んでいないのは本当で、これから面白くなるかもしれないと、懸命に思い込む。常に本音で生きている珠紀に、嘘は吐きたくなかった。

「そうなんだ。明後日、一年ぶりに新刊が出るんだ。だから、日曜日はモアに行くつもり」

「わざわざモアの本屋さんで買うの？ ホシノ書店なら近いのに」

ショッピングセンターモアまでは、道が空いているときでも車で十五分はかかる。一方のホシノ書店は、小学校のすぐ近くに店を構えていた。ごく自然に頭に浮かんだ愛衣の問いに、珠紀は吐息交じりに笑った。

(中略…二日後、二人はショッピングセンターモアに向かう。珠紀はめあての漫画を買い、愛衣は珠紀を待つ間に、おそろいのウサギのヘアピンを買って待っていた。)

手持ち無沙汰になったららしい珠紀が、本屋の袋から漫画を出して読み始める。その横顔に声をかけた。

「本当にその漫画が好きなんだね」

「うん、大好き。今度、大島さんにも続きを貸すね」

「……うん」

珠紀が漫画から顔を上げた。

「大島さんは誰が好き？ 研吾？ 雅希？ 春奈かな」

「うーん、雅希かなあ」

あの底なしに快活なキャラクターの名前が、雅希だったはずだ。短髪で、口と耳が大きくて、変な絵のTシャツばかり着ていて。愛衣は記憶をたぐり寄せる。まだ三巻を読み終わっていないとは、どうしても言い出せなかった。

「雅希かあ。意外かも。どうして？ どこが好き？」

「やっぱり明るいところかなあ」

「明るいところ？」

愛衣と目を合わせたまま、珠紀は二度瞬きをした。

「だったら五巻までの中で、どの話が一番よかった？」

「えっ、話？ どれかなあ」

声が裏返りそうになる。愛衣はますます頭を巡らせた。かろうじて思い出せるのは、もつとも熱意を持って読んでいた一巻の冒頭で、しかし、雅希をいいと感じた理由は挙げられない。愛衣がまごついていると、

「私はね、研吾と雅希が海に行くところが好き」

愛衣は口の中のイチゴアイスを飲み下した。珠紀の目に、いつもと違う光が点っているような気がしたのだ。挑戦的にも思える眼差しに、なにかがおかしいと脳が訴えてくる。だが、
③ 珠紀から隠しごとの甘酸っぱい匂いはしない。愛衣は慎重に顎を引いた。

「私も、その場面は好き」

④ その瞬間、百年に一度しか咲かない花が開くみたいに、自分の身体があ匂いを発するのを感じた。今まで親や友たちから醸し出されていたものよりも、遥かに刺激的だ。目に涙がにじみそうになる。こんな経験は初めてで、愛衣は内心うろたえたが、嘘を取り消すことはできなかった。珠紀と仲良くなりたい。自分に格好いい友たちができたことを、仁美と香奈恵に見せつけたい。いいよね、あそこ、と相槌を重ねた。

「だよね」

珠紀が漫画に視線を戻す。さつきと同じ横顔のはずが、^⑤なぜか拒まれてるように感じる。珠紀は無言でページをめくった。愛衣も黙って残りのアイスを食べた。やはり美味しいとは思わなかった。

門限の時刻までにはまだ余裕があったが、もういいよね、との珠紀の一言で、モアを出ることになった。帰り道、珠紀は後ろを振り返らなかつた。Tシャツに包まれた細い背中、行きよりも神経が張り詰めているみたいだ。置いていかれないよう、愛衣はペダルを強く踏み込んだ。

(中略…次の日学校に行った二人は、先生から飼育係でもないのにいつもウサギの世話をしていることを注意されてしまう。そのため、最後にもう一度ウサギたちに会いに行こうと、二人でウサギ小屋に向かった。)

「あの、辻さん」

同じく、^(注2)ゴマを腕から放した珠紀に声をかけた。

「なに？」

「ウサギの世話はできなくなっちゃったけど、これからも一緒に遊びたいな。休み時間とか、放課後とか」

「大島さん??」

「うん」

愛衣はズボンのポケットに手を入れた。小さく折り畳んだ紙袋が指に触れる。昨日渡しそびれたヘアピンをこっそり持ってきていた。まさかウサギのことで注意を受けるとは思いも寄らなかつたが、かえってよかつたかもしれない。これがゴマの代わりになればいい。愛衣が紙袋を掴んだときだった。

「無理。私、大島さんとは友だちになれない」

「えっ」

ポケットの中で手が止まった。

「嘘を吐く子って、嫌いなんだ」

大島さんとウサギ小屋に通うのももうやめようと思っていた、だから先生に怒られてちょうどよかった、と珠紀は続けた。

「嘘？ なんのこと？」

声が震えた。

「研吾と雅希が海に行く話なんて、本当は漫画にないんだよ。雅希は明るく見えるけど、実はすごく繊細で、家に一人いるときはめちゃくちゃ暗くて、お風呂に浸かって泣くこともある。でも、大島さんは雅希のそういうところを全然知らなかった。もしかしてちゃんと読んでないのかもしれないと思って、それで私、試したんだ」

「なんでそんなこと——」

「大島さんが正直に感想を言ってくれてるのか、気になったからだよ。本当は読んでないとか、全然面白くなかったとか、そういうことでもよかったのに」

⑦ 後ろから頭を叩かれたみたいだった。あるとき珠紀から隠しごとの匂いがしなかったのは、彼女にやましい感情がなかったからなのだとほっとする。だが、自分が嘘を吐いたのは、珠紀のことが好きで、話を合わせたかったからだ。欺こうとしたわけではない。そう弁解したくなる一方で、あるとき自分から感じた匂いを思い出し、
⑧ 納得せざるを得なかった。あれほどの悪臭を放っていた自分が、どうして珠紀と仲良くなれるだろう。

「大島さんは私に合わせてばかりだよ。別々の人間なのに、そんなの変だよ」

言うなり珠紀は小屋を出て行った。オレンジ色の傘が咲き、遠ざかっていくのをぼんやりと見送る。昼休みの終わりを告げるチャイムが鳴り、自分も教室に戻らなければと思うが、足が動かない。下半身の感覚が消えていた。

愛衣はポケットの中の紙袋を握り締めた。珠紀と色違いのヘアピンで前髪を留めて、校内を並んで歩きたかった。その願いが永遠に叶わなくなったことを知る。廊下の端で香りつき消しゴムを交換していた一年生のことを、本当は全然笑えない。心の一部を預け

合うような友だちを、自分はずっと求めている。

だって、それが真の友情でしょう？

⑨ 愛衣は手のひらで顔を覆い、その場にしゃがみ込んだ。扉の鍵は開いている。金網を通り抜けた雨風が、肌を濡らす。それでも狭い密室に閉じ込められたように思えて、愛衣は大きく深く息を吸い続けた。

(奥田亜希子『クレイジー・フォー・ラビット』〔朝日新聞出版〕より)

(注1) 仁美と香奈恵——四・五年生のクラスが同じで親友になったが、六年生で愛衣だけクラスが離れてしまった。

(注2) ゴマ——ウサギの名前。

問1 ——線部①「友人関係がこじれるのは、これが初めてではなかった」とありますが、その理由として考えられる三十文字以内の一文を、「くから。」につながるように本文中から抜き出し、その最初と最後の五文字ずつを答えなさい。

問2 ——線部②「『辻さんって、格好いいよね』とありますが、愛衣はなぜそのように考えるのですか。その理由を、本文中の語句を用いて二十五文字以上、三十五文字以内で答えなさい。

問3 — 線部③ 「珠紀から隠しごとの甘酸っぱい匂いはしない」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 珠紀が愛衣に嘘をついた際、やましい感情を持っていなかったから。
- イ 愛衣が隠しごととしてしまうことに対する焦りを強く感じていたから。
- ウ 珠紀から想定外の質問をされたことに対して、驚いてしまったから。
- エ 愛衣と珠紀は、心の一部を預け合うような友たちではなかったから。

問4 — 線部④ 「百年に一度しか咲かない花が開くみたいに、自分の身体がああ匂いを発するのを感じた」について、次の問いに

答えなさい。

(1) 「百年に一度しか咲かない花が開くみたい」とありますが、それはどういうことですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 習慣的に嗅ぐことがあるようなにおいだということ。
- イ 今まで嗅いだことのないようなにおいだということ。
- ウ 頻繁ひんぱんに嗅ぐことがあるようなにおいだということ。
- エ 時折嗅ぐことができるようなにおいだということ。

(2) 「あの匂い」とは何の匂いですか。文章中から一語（四字）で抜き出して答えなさい。

問5 — 線部⑤「なぜか拒まれてるように感じる」とありますが、珠紀はなぜこのように感じさせるような態度を取ったのですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 愛衣が、自分に話を合わせてくれないことに、腹を立てていたから。

イ 愛衣が、本当は別の話が好きなのに自分に隠したことを知ったから。

ウ 愛衣が、自分と会話をしている際、嘘をついたことに気付いたから。

エ 愛衣が、自分が好きなキャラクターとは違った名前を口にしたから。

問6 — 線部⑥「それで私、試したんだ」とありますが、珠紀が嘘をついていることについて、匂い以外の表現ではのめかしている箇所を文章中から二十六字で抜き出し、その最初と最後の五字ずつを答えなさい。

問7 — 線部⑦「後ろから頭を叩かれたみたいだった」とありますが、なぜ愛衣はそうのように感じたのですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ウサギの世話ができなくなった上に、珠紀ともケンカをしてしまったことで今後の学校での自分の生活が不安になったから。

イ 珠紀をだまそうとして嘘をついたことを謝らなければならぬと感じ、今後の珠紀との友情が崩れてしまうと気付いたから。

ウ 自分が嘘をついてしまったことに珠紀が気付いたのだと分かり、早く違う友達を作らなくてはならないと焦りを覚えたから。

エ 珠紀に試されていたことにショックを受けた上に、正直な気持ちを伝えた方が良かったのだということに気付かされたから。

問8 — 線部⑧「納得せざるを得なかった」とありますが、それはなぜですか。その理由を、四十字以上、五十字以内で答えなさい。

問9

——線部⑨「狭い密室に閉じ込められたように」とありますが、愛衣がどのような思いでいることを表していますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が嫌いな嘘をついてしまったことに対する自己嫌悪と、今までと同じように、珠紀との友情が続かない原因を自分から作り出してしまったことに対する絶望感が重なり、孤独な思いでいる。

イ 珠紀が嫌いな嘘をついたことを知られ、真の友情でつながっていた珠紀と二度と話すことができなくなったことで疑心暗鬼きになってしまい、今まで経験したことがない状況に困惑こんわくした思いでいる。

ウ 珠紀に嘘をついたことが他のクラスメイトにも伝わってしまうことで、この先誰も自分の味方になってくれる人が現れないのだと感じ、もうどうなってもかまわない、と自暴自棄じぼうじきな思いでいる。

エ 珠紀に嘘をついたことを知られたために、ウサギの世話ができなくなったことの辛さと、珠紀に話を合わせたことで失敗したことの空しさが重なり、ひとりぼっちになってしまった思いでいる。

問10 次の会話は、生徒同士が「愛衣」という登場人物について語り合っている場面です。これらの生徒の発言の中で、誤ったこと

を言っているものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A「愛衣は、嘘をついた人がいると匂いで分かっています、という人物だったよね。しかも、他人の嘘だけではなくて、自分が嘘をついてもその匂いがするんだから大変だよね。」

イ 生徒B「たしかに。それに、周りの目の色ばかりを気にしている様子が見て取れて、かわいそうだったな。自分勝手な珠紀に無理に話を合わせて間違ったことを言ってしまったら怒られるなんてひどいよ。」

ウ 生徒C「でも、愛衣は嘘をつかれたり隠し事をされたりすることに敏感で、少なからずそれに傷ついた経験をしてきたんだから、珠紀に対して嘘をついてしまったことはしょうがない、で済む問題じゃないのかもね。」

エ 生徒D「うーん。珠紀に嘘をついてしまったことに対する弁解もできずに、友達になれないことを受け入れるしかなかった愛衣は、これから『真の友情』を見つけれられるのかなあ。」

三

次の各問いに答えなさい。

問1

次の①～⑤の文の——線部のカタカナを適切な漢字に改めなさい。

- ① オリンピックがカイマクした。
- ② ヨウリヨウよく説明する。
- ③ 全国トウイツ試験を受ける。
- ④ 社長にシュウニンする。
- ⑤ ココロヨイ音楽を聴く。

問2

次の①～⑤のグループの漢字の空欄に入る共通の部首の名をひらがなで答えなさい。

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ⑤ | 都 | ・ | 郡 | ・ | 郎 |
| ④ | 点 | ・ | 列 | ・ | 照 |
| ③ | 吧 | ・ | 侍 | ・ | 獲 |
| ② | 才 | ・ | 吋 | ・ | 限 |
| ① | 匕 | ・ | 吐 | ・ | 沐 |

以下余白

